

エコ地域デザイン研究センター

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

エコ地域デザイン研究センターでは、総じて、高い研究活動とその成果を社会に還元する活動を維持している。外部資金の獲得は継続的に行われているが、民間助成金も視野に入れた広範囲での獲得努力が望まれる。従来のプロジェクト体制はプロジェクト間の連携が弱く、エコ地域デザイン研究センター全体として寄り合い所帯的なイメージをぬぐえなかったが、新たな領域概念「テリトリー」のもとにそれらのプロジェクトを整理・統合することが計画され、そのための準備活動まで加味して考えると、2018年度の活動成果は高く評価される。この結果、エコ地域デザイン研究センターの社会的イメージがより明確化・強化され、新たな資金調達にもつながることを期待したい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2019年度は「テリトリー」の概念整理の議論を通してエコ地域デザインセンター全体の連携を強めた点を評価いただいた。「テリトリー」に関しては開かれた議論の場を設け、戦略的に発信することでさらなる社会的認知の獲得を目指している。

外部資金の調達に関しては、2019年度は「千代田学」にて獲得した。申請した科研費は残念ながら採択には至らなかったが、更に議論を深めるとともに対外的な発信を続け、エコ地域デザイン研究センターの社会的イメージをより強化することで、外部資金の獲得につなげたい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

エコ地域デザイン研究センターでは、2019年度の大学評価委員会の評価結果を受け、新たな領域概念である「テリトリー」に関して、開かれた議論の場を設け、戦略的に内外に発信することで社会的認知を獲得する努力をされており、評価できる。また、外部資金の調達に関しては、「千代田学」事業において獲得している。科研費においては不採択であったが、センターの社会的イメージを高めるために対外的な情報発信を継続するなど外部資金の獲得に努めており、適切に対応している。

II 自己点検・評価

1 研究活動

【2020年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 研究所(センター)の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2019年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績(プロジェクト、シンポジウム、セミナー等)

※2019年度に研究所(センター)として実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を記入。

【シンポジウム】

・「佐原『江戸優り』フォーラム」

■日時；2019年3月9日

■会場；千葉県香取市佐原の与倉屋大土蔵

■テーマ内容；『江戸はネットワーク』再論、「近世在方町佐原と伊能忠敬」、「佐原の現在と未来」

・江戸の基層シンポジウム「古代・中世の府中から武蔵国を探る」

■日時；2019年3月23日

■会場；法政大学 富士見ゲート校舎

■テーマ内容；「古代武蔵国府とその周辺」、「江戸の基層としての中世武蔵府中~祭礼・古戦場・歌枕~」、「武蔵国の古代・中世から江戸の基層を探る」

■主催；法政大学江戸東京研究センター・エコ地域デザイン研究センター

・水都交流セミナー「エクハルト・ハーン先生を囲んで/ベルリン近郊のエコシティと東京のグリーンインフラ」

■日時；2019年4月3日

■会場；法政大学 富士見ゲート校舎

■テーマ内容；エクハルト・ハーン先生は、ドイツドルトムント大学教授として長年ドイツやEUのエコロジカルな都

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

市計画を主導してこられた。法政大学エコ地域デザイン研究センターの客員研究員としても長く交流を続けており、今回は、ベルリン近郊で計画されている大規模なエコシティについて話題提供をしていただいた

■主催；エコ地域デザイン研究センター

・ローザ・カーロリ教授講演会「江戸・東京における佃島の誕生と発展 The origin and development of Tsukudajima in Edo-Tokyo」

■日時；2019年5月14日

■会場；法政大学 ボアソナードタワー

■テーマ内容；イタリアにおける日本近現代史研究の第一人者であり、江戸東京研究センターの客員研究員であるローザ・カーロリ教授(ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学)による講演会。氏のこれまでの沖縄史の研究からさらに幅を広げ、「江戸・東京における佃島の誕生と発展(The origin and development of Tsukudajima in Edo-Tokyo)」というテーマの発表が行われた

・日本サウンドスケープ協会 2019 シンポジウム：音風景は文化遺産となりうるか

■日時；2019年5月26日

■会場；青山学院アスタジオ地下ホール

■テーマ内容；

・第1回「テリトリー研究会 ー重要文化的景観とテリトリーオー」

■日時；2019年11月27日

■会場；法政大学市ヶ谷田町校舎 T205 教室

■テーマ内容；「京都北山杉の里・中川の文化的景観と京都」/「葛飾柴又の文化的景観と東京」

■主催；法政大学エコ地域デザイン研究センター、法政大学江戸東京研究センター

【イベント】

・「中高大院のオール法政で考える江戸東京ー江戸東京チャレンジ 2018」発表会

■日時；2019年3月9日

■会場；法政大学市ヶ谷キャンパス

■テーマ内容；法政大学の附属中学から大学院まで「オール法政」で横断的に江戸東京をテーマにワークショップを行った。

・「伊東建築塾／子ども建築塾」公开发表会

■日時；2019年3月16日

■会場；法政大学外濠校舎

■テーマ内容；2018年度の「まち」の授業は「みんなの川のまちをつくらう！」というテーマのもと、恵比寿のまちなかを流れる「渋谷川」の一角が舞台。川を中心にどのように人が集まるのか、川と建物のつながり、まちを訪れる多様な人々を意識しながら、「楽しい川のまち」を設計し、模型やプレゼンボードを制作。一年間の集大成となる公开发表会では、子どもたちがみんなでつくったまちなみを発表し、講師による講評。

・第10回外濠市民塾「外濠浚渫工事見学会」

■日時；2019年8月7日

■会場；法政大学 富士見ゲート校舎

■テーマ内容；牛込濠から小石川橋までまち歩きを実施。浚渫工事の見学は、牛込濠でヘドロの吸引作業、小石川橋では土運船にヘドロを積み込む様子を見学。実際に採取されたヘドロを間近で体感した。

・玉川の語源を探る夕べ

■日時；2019年8月17日

■会場；二子玉川ライズ・ルーフガーデン5階 原っぱ広場

■テーマ内容；法政大学エコ地域デザイン研究センター・江戸東京研究センター

■主催；創作神楽「玉姫」の上演と玉川の語源と玉川文化に関する対談。

・御嶽山で語る畠山重忠～父と娘 玉川が紡ぐ魂の邂逅～

■日時；2019年9月21日

■会場；武蔵御嶽神社 神楽殿

■テーマ内容；創作神楽の上演と重忠奉納の赤糸威大鑑にめぐる対談。

■主催；法政大学江戸東京研究センター、法政大学エコ地域デザイン研究センター

・池の畔の遊歩音楽会 2019: 音のすむ森に捧ぐ！ Vol.10 「トロールの森 2019」参加プロジェクト

■日時；2019年11月17日

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

- 会場；都立善福寺公園
- テーマ内容；池の畔を歩きながら体験する各種の活動・パフォーマンス

・トーク&ライブ 池の囁きを聴く！（池の畔の遊歩音楽会）10周年特別企画 「トロールの森 2019」参加プロジェクト

- 日時；2019年11月22日
- 会場；葉月ホールハウス
- テーマ内容；池の畔を歩きながら体験する各種の活動・パフォーマンス

・音風景で辿るまちの記憶と今：「渋谷の元」を探す神泉・円山町のまちあるき

- 日時；2019年11月29日

・展覧会『ブルーインフラがつくる都市～東京港湾倉庫論～』

- 日時；2019年7月5日～27日
- 会場；Re-SOHKO GALLERY(リソーコ・ギャラリー)

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）

※2019年度に研究所（センター）として刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を記入。

【刊行書籍】

- ・『新・江戸東京研究—近代を相対化する都市の未来』（法政大学出版局）
- ・発刊日；2019年3月
- ・著者；陣内秀信監修 法政大学江戸東京研究センター編
- ・内容；オリンピック開催をひかえ国際的な関心の高まる都市・東京の歴史に学び、東京の魅力を未来に向けて発信すべく構想された法政大学江戸東京研究センター（EToS）。本書は建築から歴史学、社会学、人類学へと領域を越えて濃密な議論が展開された設立記念シンポジウムの記録である。東京のユニークな特質を生み出す基層構造を解き明かし、この都市にふさわしい未来像を描き出す新たな都市論。
- ・『水理公式集（2018年版）』（土木学会）
- ・発刊日；2019年3月
- ・著者；道奥康治（分担執筆）
- ・内容；水工学の基礎事項とともに、目覚ましい進歩をとげたここ数十年間の水工学の知見を取り入れ、それらを公式として体系的に整理し解説した。
- ・『建築史への挑戦 -住居から都市、そしてテリトリーオへ』（鹿島出版会）
- ・発刊日；2019年4月
- ・著者；陣内秀信・高村雅彦編著
- ・内容；住居から都市、そしてテリトリーオ（領域）へと、建築史の可能性を切り拓いてきた陣内秀信の最終講義および連続・対談講義録。
- ・『アナザーユートピア』（NTT出版）
- ・発刊日；2019年3月
- ・著者；榎文彦・真壁智治・北山恒・他（共著）
- ・内容；建築家・榎文彦は近年の論考「アナザーユートピア」で、これまでのように建築から都市をつくるのではなく、「オープンスペース」——広場、路地、道、空き地、原っぱ、等——を中心につくることが、都市の未来、賑わい、人々の交流をつくるのではないかと主張し、都市・建築分野を超えて、多分野の人に取り組んでほしい課題として問題提起をした。本書では、榎の問題提起を受け、さまざまなジャンルで活躍する若手からベテランまでの17人が、それぞれの角度から「オープンスペース」という概念を深めることで、2020年以降の日本の都市のあり方に一石を投ずる。
- ・『決定版 清明上河図』（国書刊行会）
- ・発刊日；2019年7月
- ・著者；高村雅彦（共著）
- ・内容；謎の画家・張拙端によって精緻に描かれた北宋都市の光景や人々の暮らし—。「神品」として名高い画卷を高精度の原寸大画像で余すところなく掲載。さらに原寸を超える拡大画像でハイライト部分を紹介する。日本に伝わる模本3点（林原美術館本、東京国立博物館本、筑波山神社本）から、内外の研究者による充実の論考、跋文の釈文や翻訳まで付している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・『復元 江戸城能舞台と弘化勸進能』(法政大学江戸東京研究センター)
- ・発刊日; 2019年3月
- ・著者; 高村雅彦監修+高村研究室

- ・『東京発掘プロジェクト 水辺編 I』(法政大学江戸東京研究センター)
- ・発刊日; 2019年3月
- ・著者; 高村雅彦・皆川典久監修

- ・『江戸東京の都市組織に挑む』(彰国社)
- ・発刊日; 2019年9月
- ・著者; 渡辺真理・北山恒・他(共著)

【査読付き論文】

- ・馬場憲一「学徒出陣の記憶とその受容についてー現代学生への記憶伝承とその認識の検証を通してー」『現代福祉研究』第19号 2019年3月
- ・小川夕季/出口清孝/川久保 俊/大風 翼「白川村の地形モデルを用いたCFD解析と合掌造り民家の温熱環境実測」『2019年度日本建築学会大会環境系論文集』第84巻, 第763号 2019年5月
- ・包慕萍/高村雅彦「近代における居住環境改良思想の満鉄住宅標準設計への影響」東アジア都市史学会、中国上海・上海社会科学院、2019年6月
- ・邵 帥「20世紀東アジアの都市住宅-1950年代上海における計画思想とその制度から読む他都市との比較」東アジア都市史学会、中国上海・上海社会科学院、2019年6月

【論文】

- ・陣内秀信「江戸東京の心臓部、中央区の醍醐味 本郷」吉川弘文館 No.139、2019年1月
- ・陣内秀信「テリトリーオの概念について」『法政大学エコ地域デザイン研究センター2018年度報告書』pp.54-57、2019年2月
- ・陣内秀信「日本人は80年代以後のイタリア文化をいかに受容してきたかー都市の魅力とテリトリーオの豊かさの視点から」『日伊文化研究』第57号 pp.2-14、2019年3月
- ・畠山望美・高村雅彦・内藤啓太「崖線から見る江戸東京の庭園に関する研究」『2018年度2019年度日本建築学会大会関東支部研究報告集』2019年3月
- ・鳥越けい子「環境と音楽: サウンドスケープ論を手掛かりとして」音楽文化の創造(CMC) 電子版、Vol.08 特集「環境と音楽」 pp.1-7、2019年4月
- ・出口清孝「和食文化に対する「食」と「温熱環境」に関する基礎的考察」『民俗建築』155号 2019年5月
- ・陣内秀信「東京のなかの銀座; 都市文化の魅力のありか」『都市計画』Vol.68, No.4, 2019年7月
- ・秋山浩一/高橋大地/石川忠晴/道奥康治「豪雨イベントおよび土壌の湿潤性を考慮したダム貯水池上流域の崩壊地面積予測モデルの構築」『土木学会論文集 B1(水工学)』Vol.75, No.4 2019年
- ・北山恒「南六郷ハウス」『新建築』2019年8月
- ・稲益祐太「華やかな都市の、その下には」『建築雑誌』2019年度日本建築学会大会、第134集(第1725号) p.47、2019年6月
- ・北山恒「革命はすでに始まっている」『建築雑誌』no.1728、2019年9月
- ・高村雅彦「なぜ水辺に都市が栄えるのか」『経済界』第55巻、2019年11月
- ・高村雅彦「島原城下町を「水の聖地」から読み解く」『水の文化』第63号、2019年11月
- ・稲益祐太「海路と陸路がつくる尾道のテリトリーオ」建築討論(webサイト) 37巻、2019年11月

【基調講演/招待講演/国際学会】

- ・高村雅彦「奪われる自由と創造される空間」法政大学江戸東京研究センターワークショップ「テクノロジーと東京」、法政大学、2019年3月
 - ・高村雅彦他「自然素材で「始原の小屋」をつくる」江戸東京たても園「たても園フェスティバル」江戸東京たても園、2019年3月
 - ・Hidenobu Jinnai, Città e territori ereditati: Principi e metodi della valorizzazione in Giappone e in Italia、ANCSA アルガン賞授与式、イタリア・グッピオ市 2019年4月
 - ・高村雅彦「古代地形から読む神田明神とその景観」江戸東京文化講座、神田明神、2019年5月
 - ・高村雅彦・加藤智也他「中国大連沙河口区の再生計画」大連理工大学建校70周年記念ワークショップ「大連歴史街区の更新設計」大連理工大学、2019年5月
 - ・Hidenobu Jinnai, Studio comparativo della struttura urbana e dell'abitazione nelle piccole città del mondo mediterraneo: Turchia, Tunisia, Andalusia e Italia VII Conferenza dei Borghi del Mediterraneo, イタリア・チステルニーノ市、2019年10月
 - ・陣内秀信「水都東京の再考~建築からテリトリーオまで~」
- 全国まちづくり会議 2019in 東京、日本都市計画家協会、竹中工務店東京本社、2019年9月
- ・道奥康治「川の魅力発見と未来へつなぐ川づくり」ふるさと兵庫の川シンポジウム、御影公会堂、2019年2月
 - ・道奥康治「持続可能な水工学に向けて」災害科学研究所研究交流会、大阪大学中之島センター、2019年10月

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

- ・高村雅彦・邵帥『徹底解剖！万里の長城』番組名：地球ドラマチック、NHK Eテレ、2019年11月
- ・稲益祐太「南イタリア都市の諸相—プーリアの建築とテリトリー—」国際シンポジウム—南イタリア石造ドームの伝統的建築”トゥルッリ”の再生—、関東学院大学、2019年12月

【報告書】

- ・陣内秀信、稲益祐太、マッテオ・ダリオ・パオルッチ、ジュゼッペ・ガルガーノ、『アマルフィ海岸のフィールド研究—住居、都市、そしてテリトリー—』、法政大学エコ地域研究センター、2019年9月
- ・法政大学エコ地域デザイン研究センター、『平成30年度千代田学 九段・神保町地区の地域史資料アーカイブ化とその表現に関する調査・研究』2019年3月
- ・山本理顕責任編集、北山恒、他(共著)、『都市美』、名古屋造形大学、2019年8月

【学会発表】

- ・稲益祐太「プーリア州ガッリーポリにおける都市内に造られた地下オリーブオイル搾油場」日本民俗建築学会大会 武庫川女子大学 2019年6月
- ・馬場憲一「文化財政策におけるエコミュージアムの指向について—その動向と改正文化財保護法の検討を通して—」日本エコミュージアム研究会 石川県立四高記念文化交流館 2019年7月7日
- ・北山恒「脱近代あるいは非都市」2019年度日本建築学会大会、2019年8月
- ・川久保俊/吉田功樹/大澤幸之佑「深層学習による画像認識を用いた遮熱舗装の効果検証に関する研究」日本ヒートアイランド学会、東京大学 柏キャンパス、2019年9月
- ・加藤 圭/出口清孝/川久保 俊/河野峻大「ヴァナキュラー建築に施されたパッシブデザインの応用に関する研究(その4) 定量的データに基づくヴァナキュラー建築の分布傾向と気候風土の関係の把握」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・荒田史朗/川久保 俊/出口清孝/山下大樹/和久井 景太「数値流体解析を用いた外皮表面積の差異が集合住宅内の温熱環境に及ぼす影響の検」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・松尾 諒/出口清孝/川久保 俊/加藤 圭「全国を対象とした地域間健康格差の実態把握と要因分析」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・石川怜/川久保 俊/出口清孝/茂手木 大貴/高瀬直也「自治体のHP及び各種計画におけるSDGs関連情報の盛り込み状況」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・大門俊介/川久保 俊/出口清孝/星 且二/石田紗英「内外の温湿度が皮膚水分量に与える影響に関する通年調査(その1)—皮膚水分量・経皮水分蒸散量の通年変化—」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・石田紗英/川久保 俊/出口清孝/星 且二/大門俊介「室内外の温湿度が皮膚水分量に与える影響に関する通年調査(その2)—マルチレベル分析に基づく皮膚水分量に影響を与える要因の把握—」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・北田文也/出口清孝/川久保 俊/松尾 諒/加藤 圭「ホットスポット分析を用いた全国市区町村別健康格差の時系列比較」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・和久井景太/川久保 俊/出口清孝/宿谷昌則/山下大樹「暖房方式とその使用方法の違いが人体エクセルギー消費速さに及ぼす影響のCFD解析による可視化」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・吉田功樹/川久保俊/出口清孝/山下大樹/渡辺智也/岡埜紘子「赤外線サーモグラフィを用いた都心部における暑熱環境の実態把握の試み(その1) 研究目的と実測概要」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・岡埜紘子/川久保俊/出口清孝/吉田功樹/山下大樹/渡辺智也「赤外線サーモグラフィを用いた都心部における暑熱環境の実態把握の試み(その2) 建物及び地表面温度の24時間連続実測」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・大澤幸之佑/川久保俊/出口清孝/吉田功樹/岡埜紘子/山下大樹「赤外線サーモグラフィを用いた都心部における暑熱環境の実態把握の試み(その3) 街区被覆と表面温度の関係性」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・渡辺智也/川久保俊/出口清孝/吉田功樹/山下大樹/岡埜紘子「夏季の屋外における暑熱環境対策が心拍と脈拍に与える影響の検証」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・鳥越けい子「地下空間とサウンドスケープ：都市景観における音風景とは」土木学会地下空間研究委員会「人にやさしい地下空間セミナー」第7回、土木学会講堂、2019年9月
- ・邵帥/高村雅彦「上海における建国直後の計画思想とその制度—東アジア都市の近現代における住宅地形成と集合住宅に関する研究—その3」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・包慕萍/高村雅彦「大連沙河口からみる初期の満鉄標準住宅—東アジア都市の近現代における住宅地形成と集合住宅に関する研究—その4」2019年度日本建築学会大会、金沢工業大学、2019年9月
- ・橋本航征/福井恒明「港湾と都市の連携—の観点から見たみなとオアシスの機能配置と運営」第60回土木計画学研究発表会、富山大学、2019年11月
- ・堀越義人/福井恒明「河川堤防の形態とアクセス整備に着目した水辺アプローチの多様性」第60回土木計画学研究発表会、富山大学、2019年11月
- ・八杉遥/荻原知子/福井恒明「明治以降の風景写真に見る都市風景の変化とその要因」第15回景観・デザイン研究発表会、日本大学(駿河台キャンパス)、2019年12月
- ・久保拓巳/福井恒明「水害常襲地の土地利用変遷と都市計画—倉敷市真備地区を対象に—」第15回景観・デザイン研究発表会、日本大学(駿河台キャンパス)、2019年12月

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・田中咲/福井恒明「市民参加の地域活動における市民の意向ー外濠市民塾の活動を対象に」第15回景観・デザイン研究発表会、日本大学（駿河台キャンパス）、2019年12月 ・堀川萌/荻原知子/福井恒明「明治以降の新聞記事に見られる広場等公共空間の変遷」第15回景観・デザイン研究発表会、日本大学（駿河台キャンパス）、2019年12月 ・田邊喬太/福井恒明「九段・神保町周辺の地域史資料アーカイブ化とその活用」第15回景観・デザイン研究発表会、日本大学（駿河台キャンパス）、2019年12月 ・稲益祐太「スーヴェニールのなかの都市」2019年度日本建築学会大会都市史小委員会、建築会館、2019年12月 ・馬場憲一「住民参画の文化財保護政策における制度的課題ー改定文化財保護法と自治体文化財保護条例の分析からー」日本文化政策学会、さいたま市文化センター、2019年12月
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）</p>
<p>※研究所（センター）がこれまでに発行した刊行物に対して2019年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や2019年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）、2019年度のwebサイトアクセス件数、掲載コンテンツダウンロード件数、表彰・受賞歴等の詳細を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）</p>
<p>※2019年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質保証活動は運営委員会において実施している。 ・運営委員会の構成員はセンター長・副センター長を含め17名の兼任研究員及び客員研究員であり、議題に応じてはオブザーバーの参加も規定上認められている。運営委員会では各委員からの報告を受け、それに依りて広く議論を行い、研究活動の質の向上に努めている。 ・イベントやシンポジウムでのアンケートを中心に、学内外を問わず、幅広い立場の方々からの意見や指摘を受ける体制を整えている。加えて、各プロジェクトでは、地元の町会や企業、行政との連携が取られているため、事業内容についてその都度評価を受ける柔軟な体制が築かれている。
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況</p>
<p>※2019年度中に研究所（センター）として応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）及び2019年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を記入。</p> <p>【採択を受けた外部資金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度「千代田学」（千代田区内にある短期大学、大学、大学院等の研究機関が千代田区の様々な事象を多様な切り口で調査・研究し、その定着と発展、また、各学校が区及び地域と連携を図ることを目指して、事業経費の一部を補助するもの）に下記の事業が採択。 ■ 内濠地域におけるアドホックな賑わいの可視化に関する調査・研究 ■ 岩佐明彦 エコ地域デザイン研究センター ■ 概要： 「アドホックな賑わい」（暫定的で単一目的指向型の人の賑わい。これまでの各種統計ではうまく捉えることができなかった賑わいの形態）を内濠地域で抽出・分析し、内濠地域の特性を活かした都市計画・都市政策の策定に資する資料の提供を行う。（事業実施期間 2019年4月1日から2020年3月31日） <p>【応募した外部資金】</p> <p>2020年度 科研費基盤研究(A) (一般)「テリトリーオによる地域の包括的デザイン手法の開発」(代表; 福井恒明) (不採択)</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・当センターは、学内外の研究者と連携した研究活動が活発であり、さらに連携対象が研究者に限らず、地域住民・行政・企業・教育機関と多岐に渡ることが特色といえる。また、多くのプロジェクトに地元の住民や行政・企業が関わり、活動に対するフィードバックを受けやすい体制にある。 ・運営委員会は、文理にわたる専門性を持つ研究者から構成されており、多角的な視点による研究活動を推進することができる。 ・各プロジェクトでは、これまで蓄積してきた成果や研究者のネットワークを活かしながら、対外的に多くの活動を行っている。さらにシンポジウムや論文執筆、報告書刊行により、研究成果の社会的還元を積極的に行っている。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>外部資金の獲得が懸案事項である。千代田学事業については引き続き 2020 年度も採択を受けているものの比較的少額でテーマも限定的である。科研費申請をはじめ、引き続き外部資金の獲得のための努力を続けたい。</p>	

【この基準の大学評価】

<p>エコ地域デザイン研究センターの研究・教育活動実績においては、シンポジウムの実施 6 回、イベントの実施 9 回の実績があり、その回数のみならず、内容も多種多様にわたる。また、対外的に発表された研究成果においても、著書 8 編、論文 18 本、報告書 3 報のほか、数多くの学会発表、講演などにより精力的に研究成果を発信しており、高く評価できる。研究成果に対する社会的評価に関しては「特になし」の回答であるが、著書や論文、報告書の本数からして引用がないとは考え難く、ウェブサイトのアクセスなども含め、可能な限り調査することが望まれる。年次報告会を開催し、一般から活動内容に関する意見を集める機会を設けることで、11 回の運営委員会と合わせ、質保証活動は適切に行われている。今後、運営委員会へのオブザーバーの参加を活用するなど、第三者評価の制度化が期待される。また、イベントやシンポジウムにおいてアンケートなどによって意見を聴取し、運営委員会を通じてセンター内で情報共有するとともに、プロジェクト活動でも、町会や企業、行政による事業内容についての評価を受けられる体制がとられている。外部資金の応募・獲得状況に関しては、千代田区が実施する「千代田学」事業においては引き続き獲得したが、科研費基盤研究 (A) は、不採択であった。外部資金の獲得は、エコ地域デザイン研究センターの社会的認知を高めることに繋がる。外部資金獲得のために一層の努力が期待される。</p>
--

III 2019 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	研究活動
1	中期目標	都市とその周辺地域の成り立ちや関係性を、歴史文化・水循環などの観点から総合的に捉える新たな領域概念「テリトリー」を提示する。
	年度目標	テリトリー概念に関する研究体制を構築し、活動を開始する。府中玉川・瀬戸内・新潟などのサイトの研究活動を通じ、「テリトリー」概念を構成する具体的な事象を整理し、共有する。
	達成指標	テリトリー概念をテーマとし、各サイトの研究活動成果を持ち寄る研究会を開催する。
	年度末報告	<p>執行部による点検・評価</p> <p>自己評価 A</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度年度末報告会 (2020. 2. 25) にて、各フィールドにおける研究をテリトリーの観点から横断的に議論した。 ・月 1 回の運営委員会では各フィールドにおける研究状況やテリトリー概念の具体化について継続的に議論している。 <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対応で延期されたシンポジウム等を実施する。 ・研究会を継続して実施し、その成果のアウトプットについて検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
2	中期目標	学術的知見をもとに、近未来の都心部及び都心周縁部のあり方や具体的な地域の姿について、

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		地域と共に議論し社会的な発信を行う。
年度目標		都心部については外濠市民塾を中心に、地元住民、地元企業や地元の教育機関との連携を深め、より良い関係を築く。都心周縁部については研究者や地域と議論する体制をつくり、基礎的な知見を蓄積する。
達成指標		・外濠市民塾を1回以上開催する ・テリトリーオに関する内容をテーマとした報告会を1回以上開催する
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・外濠・日本橋川の再生に関する東京都知事への提言実施（法政大学・東京理科大学・中央大学の総長・学長連名，2019.9.17）に際して中心的な役割を果たし、その結果として東京都の長期計画である「未来の東京」戦略ビジョンに玉川上水の復活と外濠の浄化が盛り込まれた。 ・第10回外濠市民塾（2019.8.7）を開催した。 ・第1回テリトリーオ研究会（2019.11.27）を開催し、が一部からのゲストスピーカーによる話題提供を元に、エコ研の主要メンバーによる意見交換を実施し、論点を整理した。
改善策	・引き続き都心部の環境改善について地域や行政との連携を図る。 ・活動に関する広報（参加者募集）、活動成果の広報についてはウェブサイトへの掲載、動画公開などを行っているが、これらの周知についてより充実を図る。	

【重点目標】

重点目標：テリトリーオ概念に関する研究体制を構築し、活動を開始する。

目標を達成するための施策

- ・各研究対象地における研究成果の定期的な共有
- ・テリトリーオに関する研究会の開催
- ・江戸東京研究センターのブランディング事業との共同作業

【年度目標達成状況総括】

今年度の達成目標はすべて達成した。月1回の運営委員会にて研究成果の共有を行った。テリトリーオに関する研究会は11月に実施し、年度末報告会でも実質的な議論を行った。江戸東京研究センターの事業とは常に連携を図り、学内での文理協働が進んだ。

特に、東京都知事に対する3大学総長・学長による提言（外濠・日本橋川の水質浄化と玉川上水・分水網の保全再生について）実施は、その内容が東京都の長期計画に盛り込まれ、2021年度に調査予算計上されるという具体的な成果をあげた。本研究センターが継続的に活動し、他大学や地域と連携するなかで蓄積してきたものが実を結んだものといえる。

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

エコ地域デザイン研究センターの2019年度の研究活動の目標は、「テリトリーオ」の概念に対する研究体制の構築とその活動の開始で、第1回テリトリーオ研究会の開催、報告会、運営委員会などによって研究成果の発信、議論の継続がなされており、目標は達成されている。また、社会貢献・社会連携に関しては、外濠市民塾を核として、地域住民や企業、教育機関と連携し、東京都の長期計画である「未来の東京戦略ビジョン」に「玉川上水の復活と外濠の浄化」が盛り込まれたことに際し、センターが中心的な役割を果たしたことは高く評価できる。

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	研究活動
1	中期目標	都市とその周辺地域の成り立ちや関係性を、歴史文化・水循環などの観点から総合的に捉える新たな領域概念「テリトリーオ」を提示する。
	年度目標	「テリトリーオ」概念をより深めるために、様々な領域の研究者・専門家と意見交換を行う。
	達成指標	外部の研究者・専門家を招いてテリトリーオをテーマとした研究会を開催する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
2	中期目標	学術的知見をもとに、近未来の都心部及び都心周縁部のあり方や具体的な地域の姿について、地域と共に議論し社会的な発信を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年度目標	地域と共に競技しその成果を発信する場を設ける。
達成指標	地域と共同した議論と発信を行う。
<p>【重点目標】 「テリトリーオ」概念をより深めるために、様々な領域の研究者・専門家と意見交換を行う。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 研究会開催に向けて準備をすすめる。HP等で告知し対外的な発信に努める。</p>	

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

エコ地域デザイン研究センターの研究活動における2020年度中期・年度目標は、新たな領域概念である「テリトリーオ」を広く提示することである。そのために様々な領域の研究者・専門家と意見交換を行い、「テリトリーオ」をテーマとする研究会を開催することを達成指標としており、目標設定は適切といえる。

社会貢献・社会連携においては、年度目標が「地域との協議、発信する場の設定」、達成指標が「地域と協働した議論と発信」であり、これらはやや抽象的な表現にとどまっている。今年度の調書には記載されていないが、新潟市内の関係者との潟の再生に関する協議、里潟環境ネットワーク会議とのテリトリーオ研究に関する意見交換会が予定されている。また、年度報告会の開催や年度報告の発行、およびテリトリーオ研究の成果をウェブ掲載することが予定されている。次年度以降、「年度目標」・「年度目標に対する達成指標」について、具体的に記述することが強く望まれる。

【大学評価総評】

エコ地域デザイン研究センターでは、学内外の研究者・専門家と連携した研究活動を積極的に行っており、さらに地域住民や行政、企業、教育機関と連携を深めることで高い研究活動を維持している。研究成果は、多くの著書や論文、報告書にまとめられ、シンポジウムも積極的に開催し社会的に広く還元されており、高く評価できる。しかしながら、外部資金の獲得に関しては様々な取り組みはみられるものの、懸案事項となっており、引き続きの努力が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。